

倉敷のものづくりの魅力を 世界に伝えていきたい。

大橋 孝英

取締役 / 営業、企画、生産管理及び販売



もっと生の声

Q & A

—— やりがいを感じるのは、どんな時ですか？

自社で作った製品を身に付けた人を街で見掛けたときには、率直に嬉しいですし、やりがいにも繋がっています。販売職の時とは違う嬉しさですね。

—— 思い出に残っているエピソードは？

初めて訪れた児島ジーンズストリートで、お客様はまだ少なかったのですが、そこで働いている方々が、活き活きとされていたのを見て、自分も洋服を作り、この場所でお店を持ちたいと思うきっかけになりました。その時の出会いや思いがあったからこそ、ブランド立ち上げや出店に繋がっていると思います。

—— 今後挑戦してみたいことはありますか？

自社ブランドの海外展開です。地元倉敷のものづくりの魅力を世界の人々に知ってもらいたいです。そして、倉敷に來られた方には、想像以上の倉敷を見てもらいたいですね。

「学生時代から洋服が好きで、将来自分のブランドを作り、お店を持ちたいと思っていました。」と話す大橋さんは、高校、大学では商業・経済を学ぶ進路を選択。大学2年からは、洋服についても学ぶため、昼は大学で経営学を、夜は専門学校で服飾を学んだといいます。その後、アパレル販売職を経て、現在の会社に入社しました。現在、OEM事業では、営業、企画、生産管理を担当し、自社ブランドでは、営業から企画、生産、販売まで幅広く担当しています。「弊社は、創業以来作業服から婦人服、紳士服、小物まで様々なOEM生産を行っています。作業服の機能性をカジュアルに取り入れたり、カジュアルの流行を作業服に取り入れたり、OEMで培ったノウハウを活かしながら、弊社ならではの小回りのきく製品づくりをしています。自社ブランドでも、そのノウハウは活かされています。」

また、自社ブランドでは、岡山県内で生地から製品になるまで、すべての工程を完結させることにこだわったものづくりをしています。「あまり知られていませんが、倉敷をはじめ岡山県内には、超有名ブランドの製品作りを担う工場がたくさんあります。そんなものづくりの地から、“日本のファッション”や“倉敷のものづくり”を発信してみたいと考えています。」

